

諏訪の景気動向

平成22年 2月

(平成22年1月末 D・I調査)

平成22年2月16日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 22 年 1 月末）

「平成 22 年 1 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 190 社のご協力を得て行った 1 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は $\Delta 5.3$ と前回調査時（平成 21 年 10 月末、以下同）の 10.1 から 15.4 ポイント悪化し 3 期振りにマイナスに転じた。製造業の業況判断 D I は、「好転」したとする企業が 31.4%あるものの、「悪化」とする企業も 19.3%あることから同 D I は 12.1 と前回調査時の 23.2 から 11.1 ポイント悪化した。また、非製造業では「3 ヶ月前」と比べ「好転」とする企業が 4.0%しかなく、同 D I は $\Delta 54.0$ と前回調査時の $\Delta 26.0$ から 28.0 ポイント悪化しており厳しい業況が続いている。

製造業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「好転」企業 31.4%、「悪化」企業 19.3%で同 D I は 12.1 と前回調査時の 23.2 から 11.1 ポイント悪化したものの 3 期連続のプラスとなった。また、「前年同期比」では 42.9%の企業が「好転」しており、同 D I は 10.0 と前回調査時の $\Delta 71.0$ からプラスに転じている。受注状況 D I は 12.2 と「増加」企業の割合が前回調査時の 40.9%から 36.0%へ減少したこともあり、前回調査時の 22.6 から 10.4 ポイント悪化した。また、「3 ヶ月後」の受注予想 D I は、前回調査時の $\Delta 16.3$ から 7.7 ポイント回復したものの $\Delta 8.6$ と水面下の状況が続いている。規模別の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「1~29 人企業」は 10.6、「100 人以上企業」は 31.0 と前回調査時から横這いで推移しているも、「30~99 人企業」は 2.2 と前回調査時の 30.2 から 28.0 ポイントの大幅な悪化となった。また、「3 ヶ月後」の業況予想 D I は「100 人以上企業」は 20.7、「30~99 人企業」は 6.7 とプラスを維持するも、「1~29 人企業」では $\Delta 21.2$ とマイナス幅が拡大しており、企業規模が小さくなるほど先行きを厳しくみている。

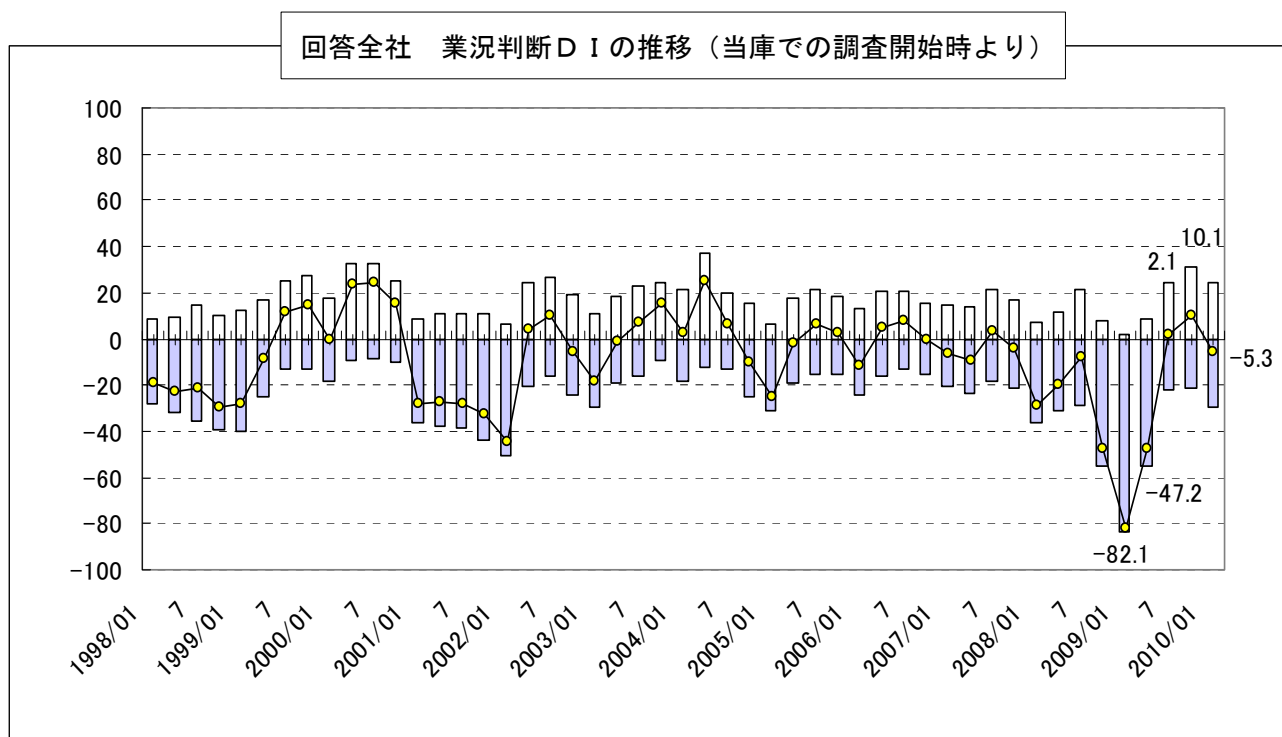
ヒアリング調査からは、大きな二番底の懸念は薄れているが、小規模企業では親会社の内製化等の影響による受注不足やコストダウン要請による収益性の悪化が続いている。また、売上高の状況は企業により区々となっており、ピーク時の 8 割程度まで回復している企業がある一方で、受注量が激減した前年同期程度の水準から回復していない企業もある。

商業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「横這」企業が 25.0%、「悪化」企業が 75.0%で「好転」とする企業が無いことから、同 D I は $\Delta 75.0$ と前回調査時から 25.0 ポイント悪化した。また、消費者の節約志向は続いており、「前年同期比」の業況・客単価・来店客数が「好転」したとする店舗は無く、各 D I は大幅なマイナスとなっている。「3 ヶ月後」の状況も厳しい見方が多いが、食料品や酒などで御柱需要を期待する声がかかれる。食料品は価格競争による商品単価の下落が続いており、来店客数は増加するも売上高は伸び悩んでいる店舗が多い。衣料品では消費者の買い控えは続いており、初売りやクリアランスセール等の実績は前年を下回った店舗が多い。自動車販売では、諏訪地方の 1 月の車庫証明件数（軽除く）は 918 台で前年同月比 +195 台（+27.0%）と、エコカー減税等の効果から 3 ヶ月連続で前年を上回っている。

観光・サービス業の「前年同期」と比べた業況判断D Iは、「悪化」とする施設が 62.5%を占め同D Iは△58.3 と前回調査時の△52.2 から 6.1 ポイント悪化した。正月休暇が曜日配列の関係で短かったことや宿泊客を確保すべく宿泊単価を下げているため景況は引き続き厳しいとする声がかかれる。また、御柱祭が始まる「3 ヶ月後」の予想では、宿泊客数D Iは「好転」を予想する企業が 41.7%あるものの、同祭の効果は数日間のみとして、さらに「悪化」を予想する企業が 37.5%あることから同D Iは 4.2 と伸び悩んでいる。

建設業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業 0.0%、「悪化」企業 42.9%で同D Iは △42.9 と前回調査時の△26.7 から 16.2 ポイント悪化した。また、「前年同期」と比べて「業況」・「受注状況」・「外注発注量」が「好転」したとする企業はなく、各D Iとも大幅なマイナスとなっており厳しい状況が続いている。建築工事は、諏訪地方の 12 月の新設住宅着工件数は 118 戸で、昨年同月の 128 戸から△10 戸（△7.8%）減少、平成 21 年 4 月～12 月の累計着工戸数は 948 戸で前年同期の 1,249 戸に比べ△301 戸（△24.1%）と大幅に減少している。

雇用状況は、平成 21 年 12 月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月を△0.40 ポイント下回り 0.40 倍と対前年比で 27 ヶ月連続して低下した。また、長野県と同倍率は 0.46 倍、全国の同倍率は 0.46 倍となっている。なお、諏訪地域の 12 月の新規求人（全数）は 886 人で前年同月比△337 人（△27.6%）の減少、新規求職者数は 1,215 人で前年同月比△186 人（△13.3%）の減少となっている。また、事業主都合による雇用保険資格喪失者は 102 人と前年同月より△157 人減少、前月より△81 人の減少となった。



業況判断D Iの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社(190社)の「3ヶ月前比」の業況判断D Iは、「好転」企業が24.2%、「横這」企業が46.3%、「悪化」企業が29.5%で、同D Iは△5.3と前回調査時の10.1から15.4ポイント悪化し3期振りにマイナスに転じた。

製造業の業況判断D Iは、「好転」したとする企業が31.4%あるものの、「悪化」とする企業も19.3%あることから同D Iは12.1と前回調査時の23.2から11.1ポイント悪化した。また、「3ヶ月前」と比べて「横這」とする企業割合が多いものの、規模別では「100人以上企業」の37.9%、業種別では「輸送用機械」の50.0%の企業で「好転」したとしている。

非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の業況判断D Iは△54.0と前回調査時の△26.0から28.0ポイント悪化した。なかでも、商業・建設業では「好転」とする企業は無く、非製造業全体でも「好転」企業は4.0%しかないなど厳しい業況が続いている。

産業別業況表

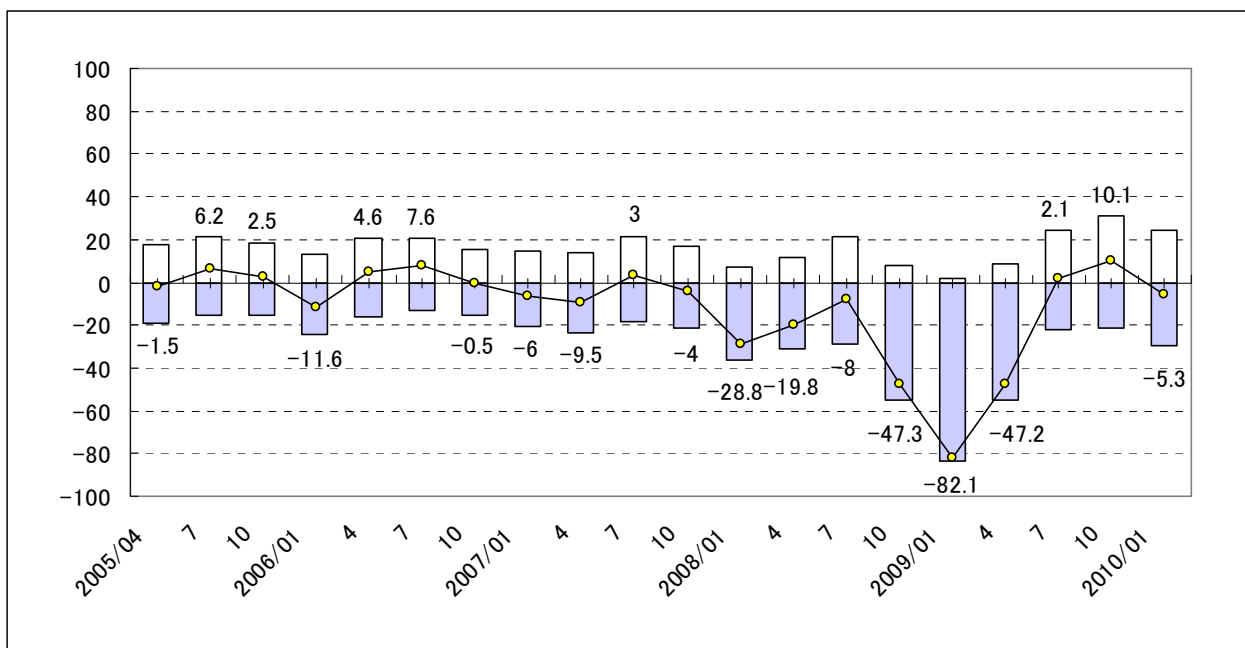
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	190	24.2	46.3	29.5	-5.3	190	32.1	23.7	44.2	-12.1	190	16.8	60	23.2	-6.3
製造業	140	31.4	49.3	19.3	12.1	140	42.9	24.3	32.9	10	140	15.7	65	19.3	-3.6
非製造業	50	4	38	58	-54	50	2	22	76	-74	50	20	46	34	-14
商業(大型店)	12	0	25	75	-75	12	0	8.3	91.7	-91.7	12	0	58.3	41.7	-41.7
建設業	14	0	57.1	42.9	-42.9	14	0	14.3	85.7	-85.7	14	7.1	57.1	35.7	-28.6
観光・サービス	24	8.3	33.3	58.3	-50	24	4.2	33.3	62.5	-58.3	24	37.5	33.3	29.2	8.3

自社業況判断D Iの推移

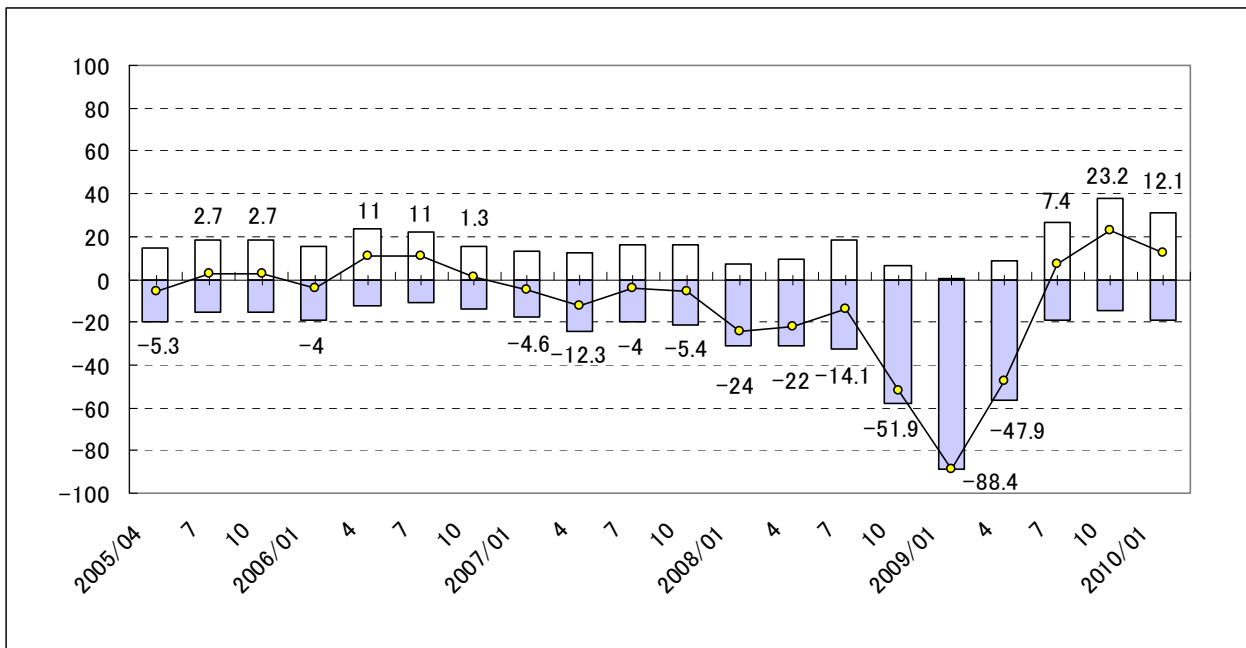
●回答全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-1



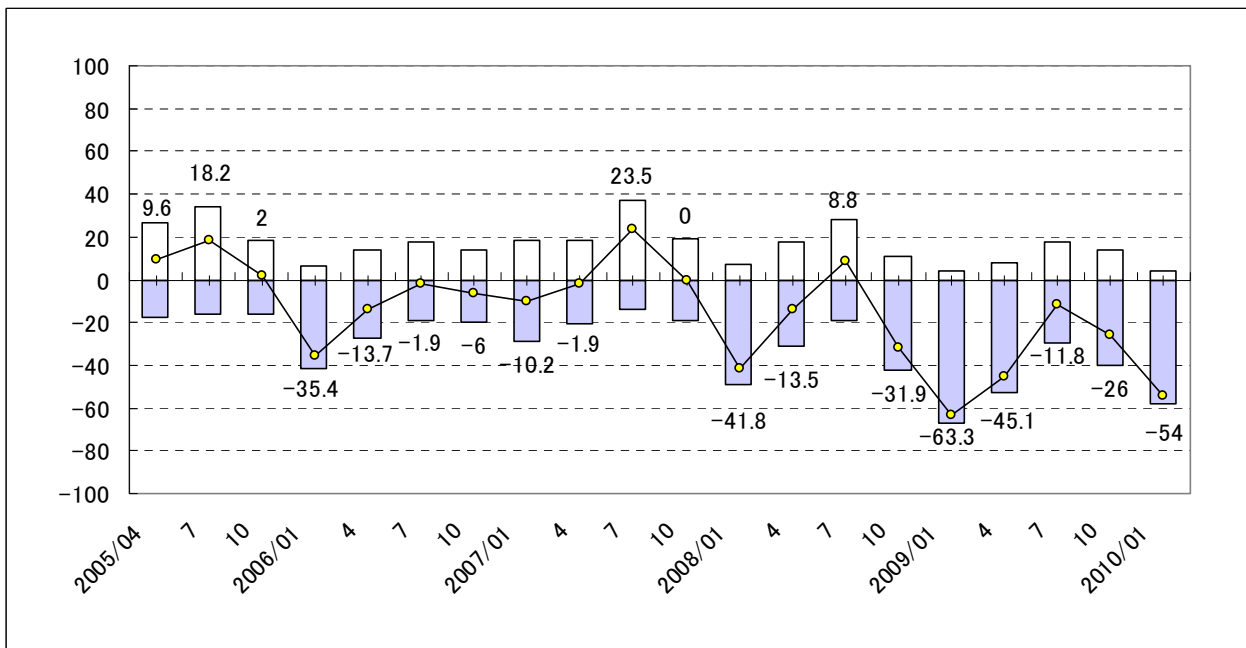
●製造業：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-2



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業31.4%、「悪化」企業19.3%で同DIは12.1と前回調査時の23.2から11.1ポイント悪化したものの3期連続のプラスとなった。また、「前年同期比」では42.9%の企業が「好転」しており、同DIは10.0と前回調査時の△71.0からプラスに転じている。「3ヵ月後」の業況予想DIでは「横這」とする企業割合が65.0%と最も多いものの、「好転」とする企業が15.7%、「悪化」とする企業が19.3%あり、同DIは△3.6と前回調査時の△14.6からマイナス幅は縮小している。

収益性DIでは、「3ヶ月前」と比べ収益性が「好転」した企業が15.6%、「悪化」した企業が27.7%で、同DIは△12.1と前回調査時の△5.8から6.3ポイント悪化した。規模別の「3ヶ月前」と比べた収益性DIは「1～29人企業」が△16.7、「30～99人企業」が△15.2とマイナスであり、「100人以上企業」のみが3.4とプラスを維持している。また、「3ヶ月後」の収益予想DIでは、「1～29人企業」の36.9%が悪化を見込み同DIは△30.8と「100人以上企業」の同DI0.0と比べ厳しい見方をしている。

「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは12.2と前回調査時の22.6から10.4ポイント悪化した。規模別の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、「100人以上企業」の42.9%で「増加」しているとして同DIは32.1と高水準を維持しているも、「1～29人企業」・「30～99人企業」では「減少」とする企業割合が25%以上あり、DI値はプラスではあるものの一桁台に落ち込んでいる。業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、一般機械・電気機械・輸送用機械では半数近くの企業が「増加」しているとしてプラスを維持しているものの、精密機械は前回調査時の0.0から△33.3とマイナスに転じた。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	140	31.4	49.3	19.3	12.1	140	42.9	24.3	32.9	10	140	15.7	65	19.3	-3.6	
規模	1～29人	66	33.3	43.9	22.7	10.6	66	37.9	27.3	34.8	3	66	9.1	60.6	30.3	-21.2
	30～99人	45	24.4	53.3	22.2	2.2	45	40	22.2	37.8	2.2	45	20	66.7	13.3	6.7
	100人～	29	37.9	55.2	6.9	31	29	58.6	20.7	20.7	37.9	29	24.1	72.4	3.4	20.7
分類	金属製品製造業	17	17.6	70.6	11.8	5.9	17	64.7	11.8	23.5	41.2	17	29.4	52.9	17.6	11.8
	一般機械器具製造業	37	37.8	40.5	21.6	16.2	37	43.2	24.3	32.4	10.8	37	13.5	73	13.5	0
	電気機械器具製造業	28	39.3	42.9	17.9	21.4	28	32.1	25	42.9	-10.7	28	21.4	64.3	14.3	7.1
	輸送用機械器具製造業	16	50	43.8	6.3	43.8	16	56.3	25	18.8	37.5	16	6.3	81.3	12.5	-6.3
	精密機械器具製造業	15	0	66.7	33.3	-33.3	15	20	46.7	33.3	-13.3	15	6.7	86.7	6.7	0

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前比」の業況判断D Iは、70.6%の企業が「横這」状況として同D Iは5.9となっている。また、「前年同期比」では64.7%の企業が「好転」しており、同D Iは41.2と5業種の中で最も高い数値となっている。なお、「3ヶ月後」の予想でも29.4%の企業が「好転」を見込み同D Iは11.8と、こちらも5業種の中で最も高い数値となっており先行きは比較的堅調な見方となっている。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは16.2と、前回調査時の10.8から5業種の中で唯一プラス幅が拡大した。ただし、「前年同期比」での「好転」企業は43.2%、「悪化」企業は32.4%と企業によりバラツキがみられ、「3ヶ月後」の予想でも「好転」企業13.5%、「悪化」企業13.5%と同様の傾向がみられる。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業が39.3%あるものの「悪化」企業が17.9%あることから、同D Iは21.4と前回調査時の39.3から17.9ポイント悪化した。また、「前年同期比」の業況判断では、5業種の中で最も高い42.9%の企業が「悪化」したとして同D Iは△10.7となっている。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業が50.0%あり同D Iは43.8と5業種の中で最も高くなっている。また、「前年同期比」の業況判断でも56.3%の企業で「好転」している。ただし、「3ヶ月後」の業況予想では「横這」とする企業が81.3%を占めるものの、大手メーカーのリコール問題等を不安視する企業もあり、同D Iは△6.3と前回調査時の6.3から5業種の中で唯一マイナスに転じた。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「横這」とする企業が66.7%あるものの、「好転」したとする企業はなく、同D Iは△33.3と5業種の中で唯一マイナスに転じた。また、「前年同期比」の業況判断D Iも△13.3と5業種の中で一番落ち込んでいる。

②小分類、他の製造業

小分類の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、自動車関連部品は57.1と高水準になっているが、光学器械は△50.0と落ち込んでいる。

③規模別業況

製造業の規模別の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「1～29人企業」は10.6、「100人以上企業」は31.0と前回調査時から横這いで推移しているも、「30～99人企業」は2.2と前回調査時の30.2から28.0ポイントの大幅な悪化となった。また、「3ヶ月後」の業況予想DIは「100人以上企業」は20.7、「30～99人企業」は6.7とプラスを維持するも、「1～29人企業」では△21.2とマイナス幅が拡大しており、規模が小さくなるほど先行きを厳しくみている。

④受注状況DI（規模別、業種別）

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは12.2と「増加」企業の割合が前回調査時の40.9%から36.0%へ減少したこともあり、同DIは前回調査時の22.6から10.4ポイント悪化した。また、「前年同期比」の受注状況DIは、前年同期が受注急減の時期だったことから同DIは4.3とプラスに転じた。なお、「3ヶ月後」の受注予想DIは、前回調査時の△16.3から7.7ポイント回復したものの△8.6と水面下の状況が続いている。

規模別の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、「100人以上企業」の42.9%で「増加」しているとして同DIは32.1と高水準を維持しているも、「1～29人企業」・「30～99人企業」では「減少」とする企業割合が25%以上あり、DI値はプラスではあるものの一桁台に落ち込んでいる。また、「30～99人企業」の「前年同期比」は△2.2、「1～29人企業」の「3ヶ月後の予想」は△26.2と企業規模により各DI値にバラツキがみられる。

業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、一般機械・電気機械・輸送用機械では約半数の企業が「増加」しているとしてプラスを維持しているものの、精密機械は前回調査時の0.0から△33.3とマイナスに転じた。

業種別・規模別受注状況表

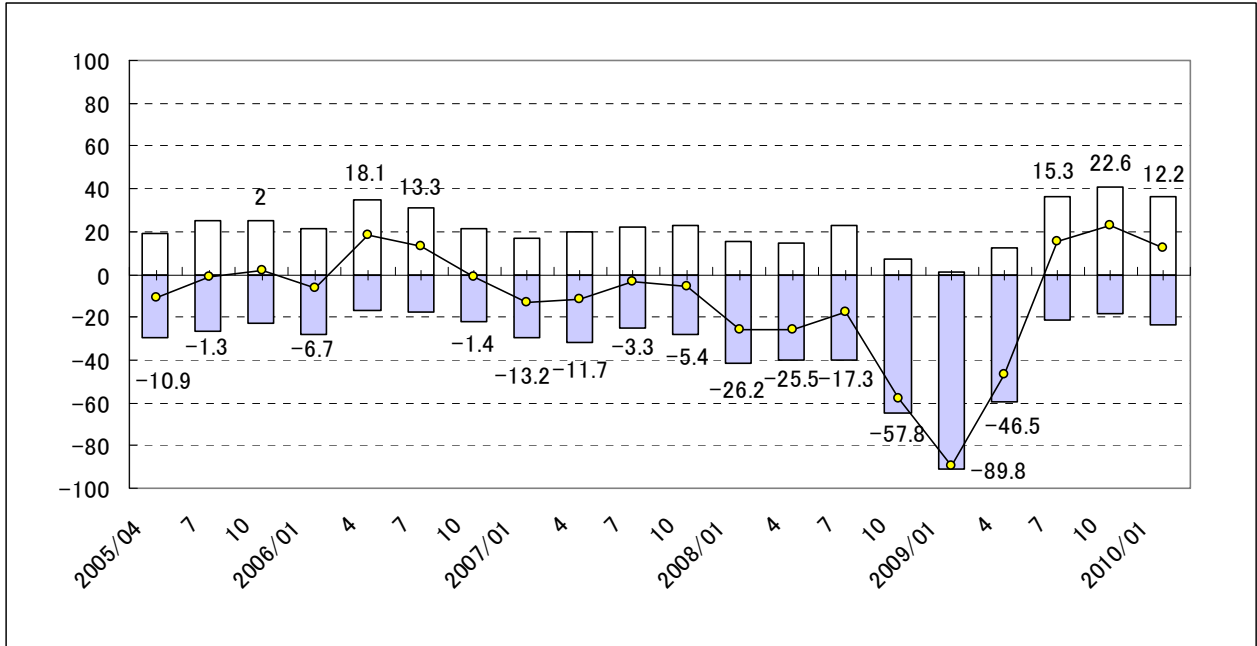
表-3

		3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		139	36	40.3	23.7	12.2	138	42	20.3	37.7	4.3	139	15.8	59.7	24.5	-8.6
規模	1～29人	65	35.4	36.9	27.7	7.7	65	40	21.5	38.5	1.5	65	10.8	52.3	36.9	-26.2
	30～99人	46	32.6	41.3	26.1	6.5	45	40	17.8	42.2	-2.2	46	17.4	67.4	15.2	2.2
	100人～	28	42.9	46.4	10.7	32.1	28	50	21.4	28.6	21.4	28	25	64.3	10.7	14.3
中分類	金属製品製造業	17	23.5	52.9	23.5	0	17	64.7	11.8	23.5	41.2	17	35.3	47.1	17.6	17.6
	一般機械器具製造業	37	43.2	35.1	21.6	21.6	37	43.2	18.9	37.8	5.4	37	13.5	62.2	24.3	-10.8
	電気機械器具製造業	27	48.1	29.6	22.2	25.9	27	29.6	22.2	48.1	-18.5	27	22.2	55.6	22.2	0
	輸送用機械器具製造業	16	50	37.5	12.5	37.5	16	62.5	12.5	25	37.5	16	6.3	75	18.8	-12.5
	精密機械器具製造業	15	0	66.7	33.3	-33.3	14	21.4	35.7	42.9	-21.4	15	6.7	86.7	6.7	0

製造業の受注状況D Iの推移

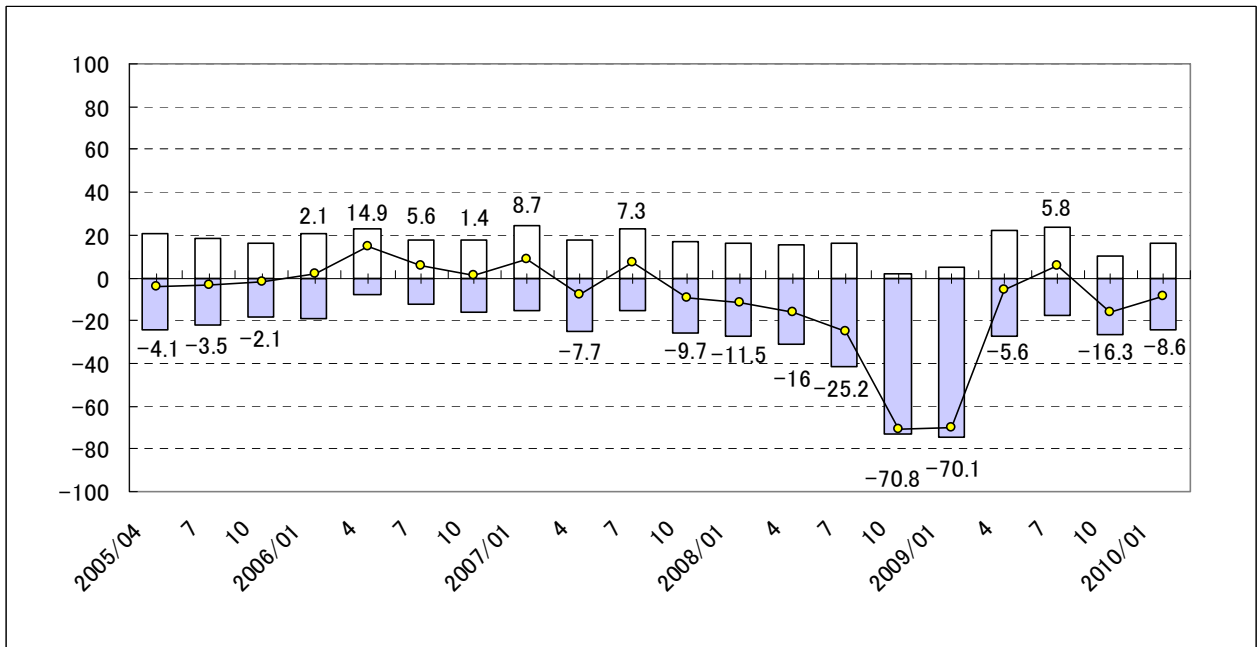
●全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフー4



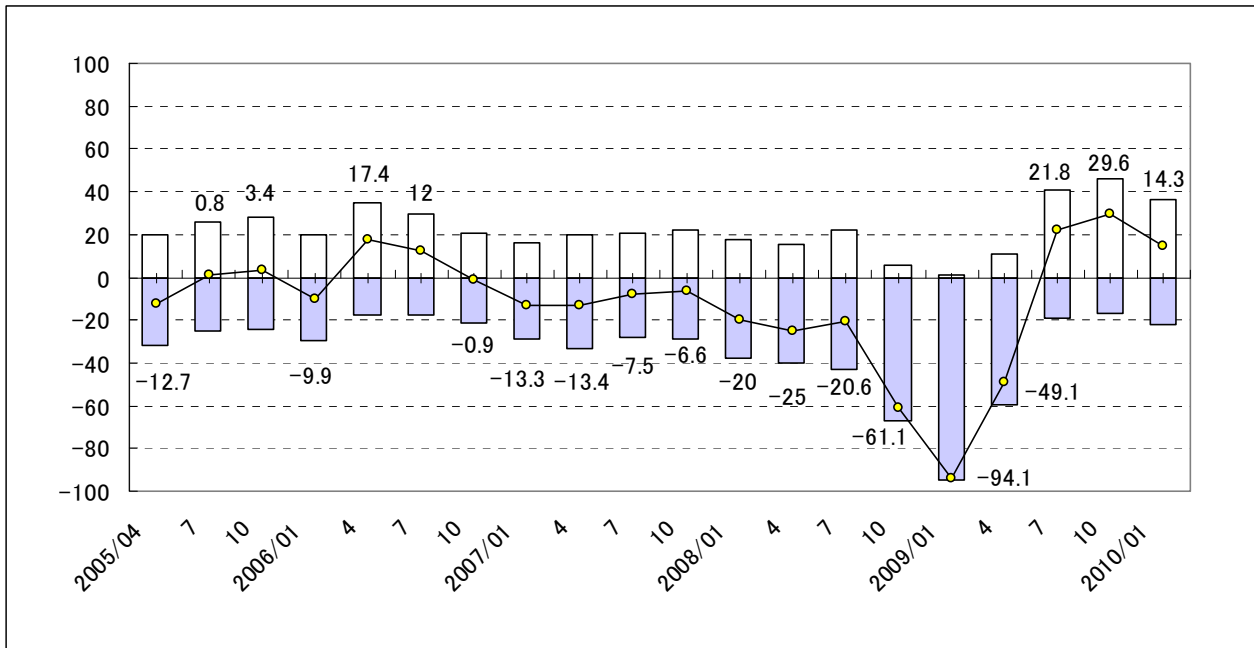
●全社：「3ヶ月後」の予想

グラフー5



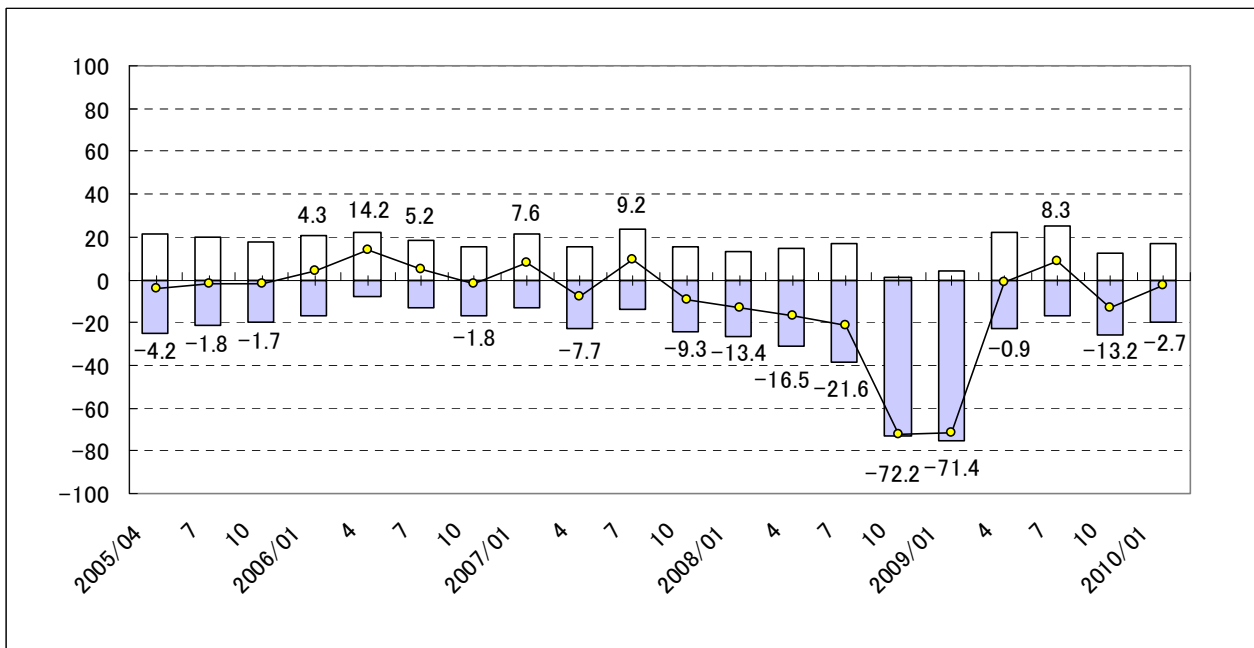
●主要 5 業種：「3 ヶ月前」と比べて

グラフー6



●主要 5 業種：「3 ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

①商業

「3ヶ月前」と比べて業況判断DIは、「横這」企業が25.0%、「悪化」企業が75.0%で「好転」とする企業が無いことから、同DIは△75.0と前回調査時から25.0ポイント悪化した。また、消費者の節約志向は続いており、「前年同期比」の業況・客単価・来店客数が「好転」したとする店舗は無く、各DIは大幅なマイナスとなっている。「3ヶ月後」の状況も厳しい見方が多いが、食料品や酒などで御柱需要を期待する声がきかれる。

- 食料品 価格競争による商品単価の下落が続いており、来店客数は増加するも売上高は伸び悩んでいる。節分の恵方巻は定着しており、バレンタインデーは手作りチョコがブームとなった。
- 衣料品 消費者の買い控えは続いており、初売りやクリアランスセール等の実績は前年を下回った店舗が多い。
- 自動車 諏訪地方の1月の車庫証明件数（軽除く）は918台で前年同月比+195台（+27.0%）と、エコカー減税等の効果から3ヶ月連続で前年を上回った。
- ホームセンター 降雪が少なく除雪用品等の動きは例年に比べ弱かった。
- 大型家電店 薄型TVの動きは引き続き堅調に推移している。

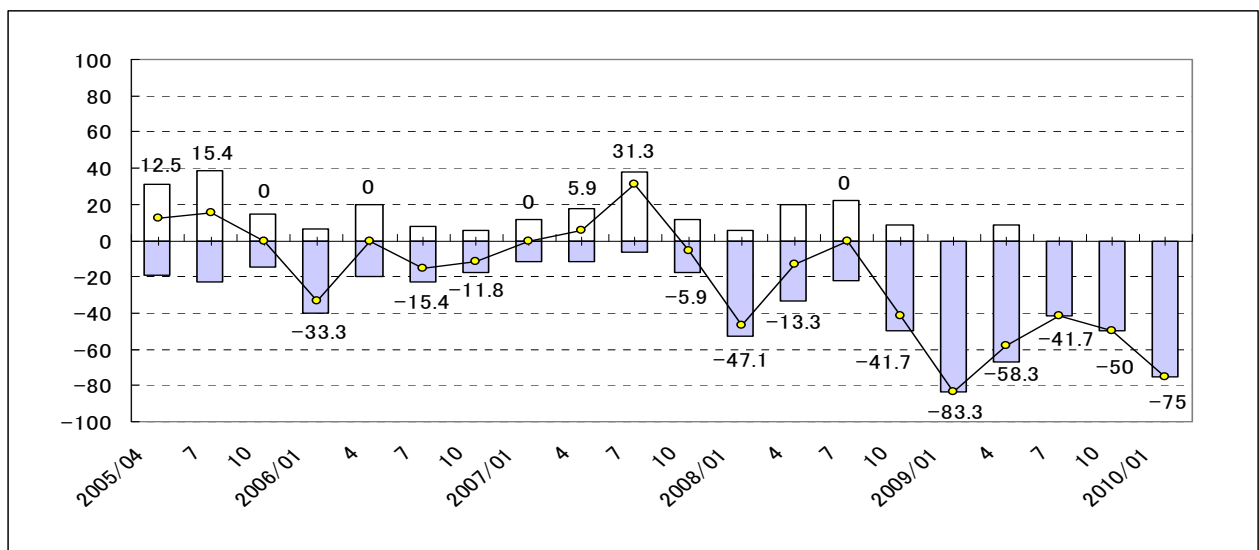
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	12	0	25	75	-75	12	0	8.3	91.7	-91.7	12	0	58.3	41.7	-41.7
客単価	12	0	33.3	66.7	-66.7	12	0	25	75	-75	12	0	66.7	33.3	-33.3
来店客数	12	0	25	75	-75	12	0	8.3	91.7	-91.7	12	16.7	58.3	25	-8.3

●商業全社の業況判断DIの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-8



②観光・サービス業

「前年同期比」の業況判断D Iは、「悪化」とする施設が62.5%を占め同D Iは△58.3と前回調査時の△52.2から6.1ポイント悪化した。正月休暇が曜日配列の関係で短かったことや宿泊客を確保すべく宿泊単価を下げているため景況は引き続き厳しいとする声がきかれる。

また、御柱祭が始まる「3ヶ月後」の予想では、宿泊客数D Iは「好転」を予想する企業が41.7%あるものの、同祭の効果は数日間のみとして、さらに「悪化」を予想する企業が37.5%あることから同D Iは4.2と伸び悩んでいる。

- 上諏訪温泉 1月の総体の宿泊客数は前年並みを維持しているものの、施設により繁閑の差が大きくなっている。法人・個人グループともに新年会は低調であった。
- 蓼科・白樺湖・車山方面 正月の休日が曜日配列の関係で短かったこともあり、1月の宿泊客数は前年を下回った施設が多い。地区内での価格競争が激しく、宿泊単価は低下している。
- 下諏訪温泉 宴会は比較的堅調であるが、宿泊客数の減少がきかれる。
- 諏訪大社 上社・下社を合わせた1月の参拝客数は約427千人と、前年同月比約13千人の増加となった。三が日の参拝客は昨年より約10千人減少したものの、月を通しては天候にも恵まれ前年を上回った。

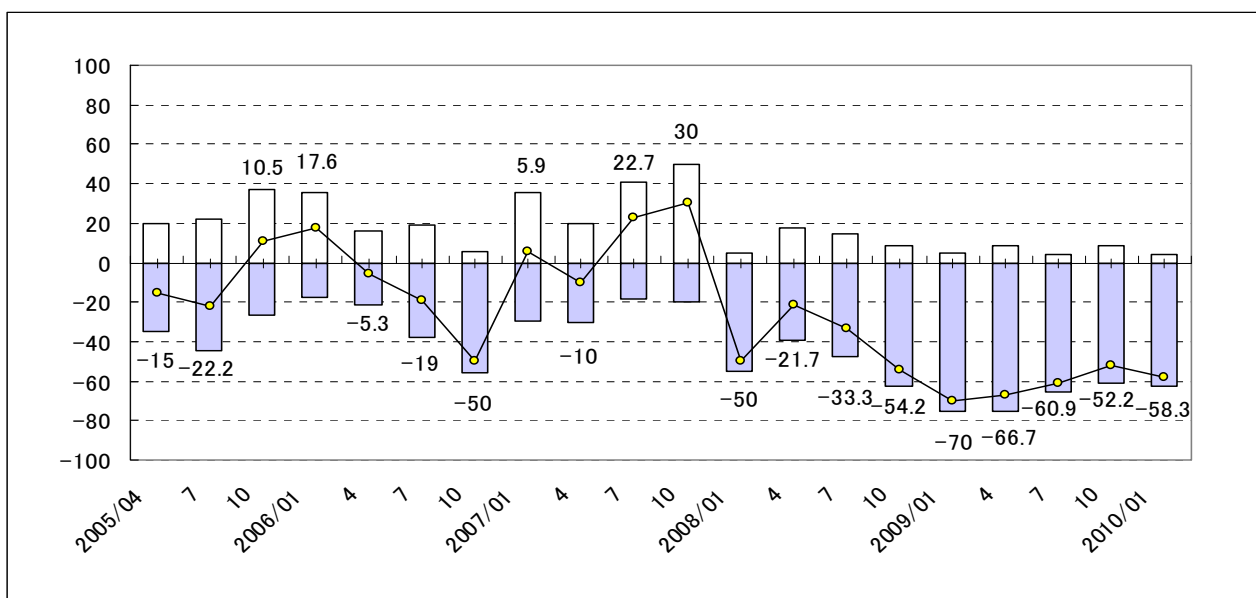
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	24	8.3	33.3	58.3	-50	24	4.2	33.3	62.5	-58.3	24	37.5	33.3	29.2	8.3
客単価	24	4.2	33.3	62.5	-58.3	24	4.2	37.5	58.3	-54.2	24	29.2	45.8	25	4.2
宿泊客数	24	8.3	20.8	70.8	-62.5	24	8.3	33.3	58.3	-50	24	41.7	20.8	37.5	4.2

●観光・サービス業全社の業況判断D Iの推移：「前年同期」と比べて

グラフ-9



3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業 0.0%、「悪化」企業 42.9%で同D Iは△42.9と前回調査時の△26.7から 16.2ポイント悪化した。また、「前年同期」と比べて「業況」・「受注状況」・「外注発注量」が「好転」したとする企業はなく、各D Iとも大幅なマイナスとなっており厳しい状況が続いている。

①建築工事

諏訪地方の12月の新設住宅着工件数は118戸で、昨年同月の128戸から△10戸(△7.8%)減少した。また、平成21年4月～12月の累計着工戸数は948戸で前年同期の1,249戸に比べ△301戸(△24.1%)と大幅に減少している。

②土木工事

長野県関係の1月の公共工事(地元業者受注分)は18件502百万円、平成21年4月～平成22年1月の累計契約額は166件3,973百万円と前年同期累計比では△15件、△202百万円の減少となっている。また、市町村の1月の発注工事は、建築工事4件6百万円、土木工事・下水道工事50件368百万円、その他工事12件48百万円の合計66件423百万円となっている。

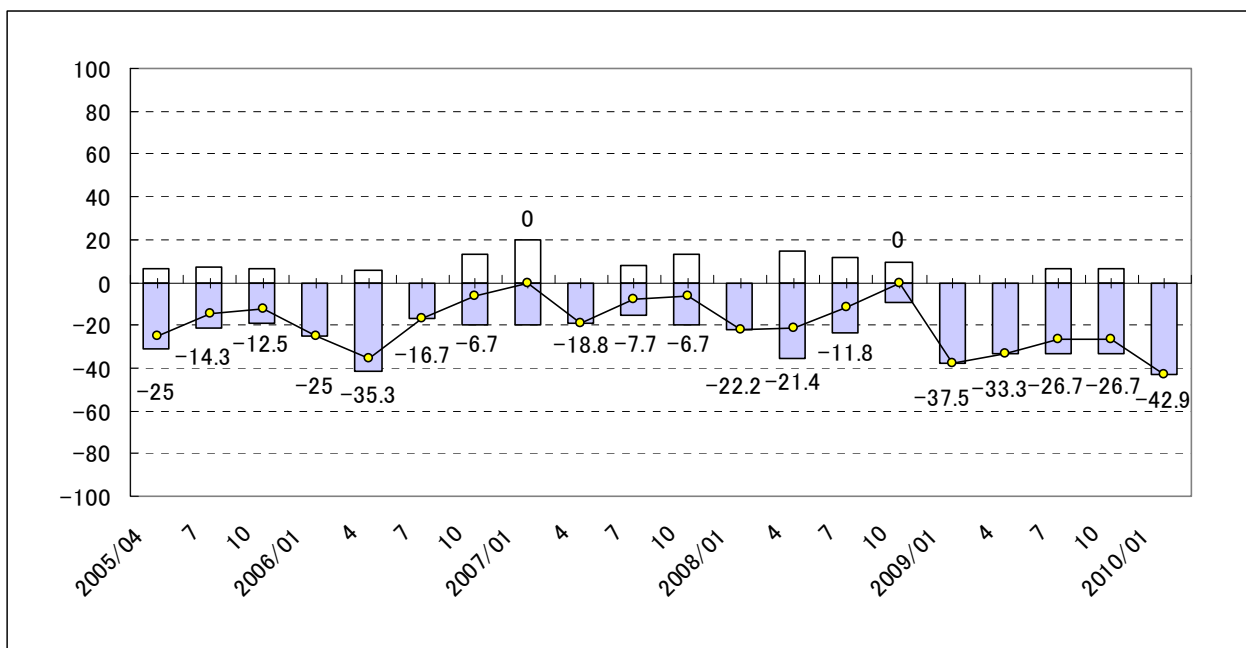
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	14	0	57.1	42.9	-42.9	14	0	14.3	85.7	-85.7	14	7.1	57.1	35.7	-28.6
受注状況	14	7.1	35.7	57.1	-50	14	0	7.1	92.9	-92.9	14	14.3	35.7	50	-35.7
外注発注量	14	0	42.9	57.1	-57.1	14	0	14.3	85.7	-85.7	14	7.1	28.6	64.3	-57.1

●建設業全社の業況判断D Iの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-10



4. 収益性状況

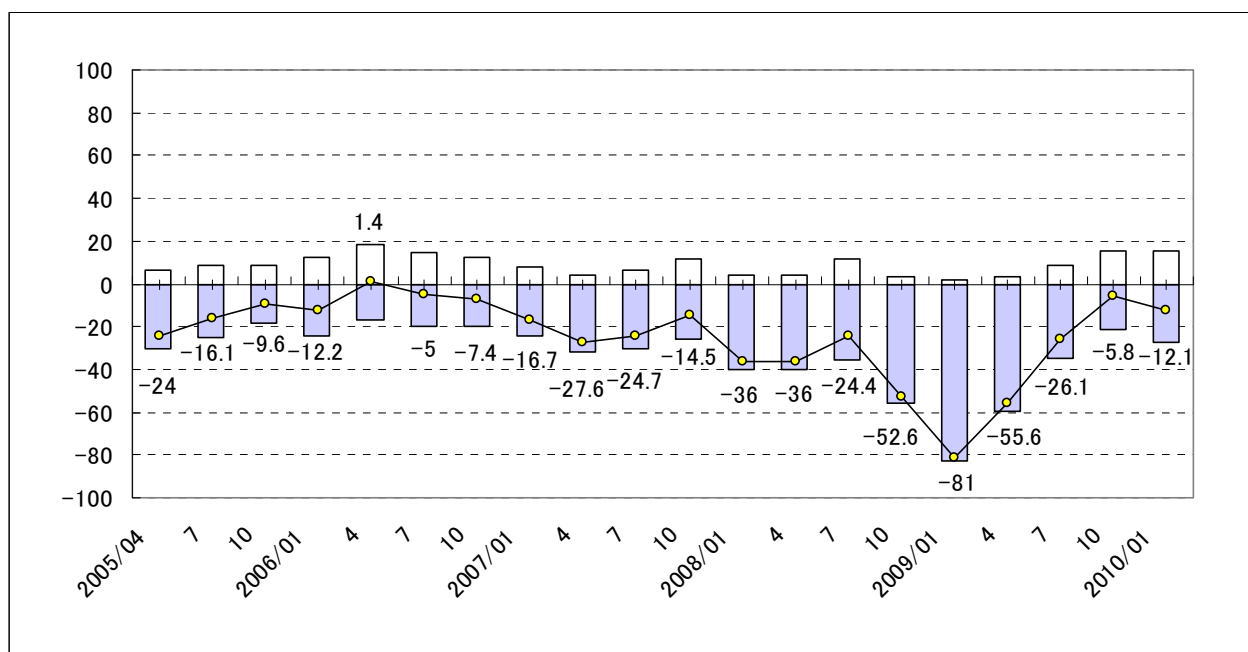
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは、「好転企業」13.1%、「横這企業」49.2%、「悪化企業」37.7%で同D Iは $\Delta 24.6$ と前回調査時の $\Delta 14.4$ から10.2ポイント悪化した。

製造業は、「3ヶ月前」と比べ収益性が「好転」した企業が15.6%、「悪化」した企業が27.7%で同D Iは $\Delta 12.1$ と前回調査時の $\Delta 5.8$ からマイナス幅は拡大している。

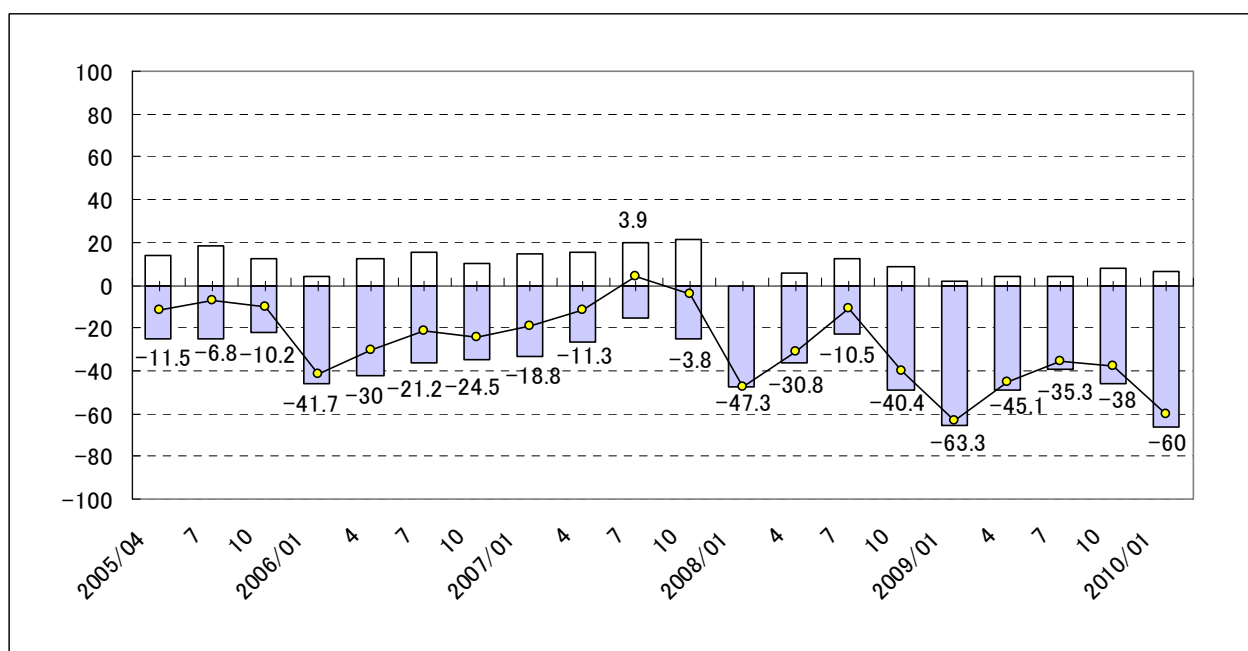
非製造業の「3ヶ月前比」の収益性D Iは $\Delta 60.0$ と前回調査時の $\Delta 38.0$ から大幅に悪化した。

●製造業の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー11



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I：3ヶ月前と比べて グラフー12



5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、②商業は売上減少、単価引き下げ、競争激化、③建設業は売上減少、競争激化、④観光・サービス業は売上減少、人件費をあげている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	119	80	11	9	19
単価引下げ	73	57	5	2	9
競争激化	55	42	5	8	0
資金繰り	48	34	2	3	9
人件費	38	23	4	1	10
労働力確保	11	9	0	0	2

6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【12月】	諏訪公共職業安定所	0.40倍	△0.40ポイント	
手形交換高【1月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	7,085枚	△1,884枚	
	金額	9,145百万円	△3,133百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	5枚	△9枚
	金額	15,301千円	+10,918千円	
電力使用量【1月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	87,778 MWh	+0.8%	
	高压電力計	103,008 MWh	+4.8%	
	合計	190,786 MWh	+2.9%	
車庫証明取扱件数【1月】(諏訪地方合計)		918件	+27.0%	
新設住宅着工件数【H21.4~12】(諏訪管内)		948件	△24.1%	

7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- 調査期間 平成22年1月末
- 調査内容 「平成22年1月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- 調査方法 アンケート調査(回答数 下記7)及びヒアリング調査(約120社)
- 対象地域 諏訪地域全域
- 業種 製造業、商業(大型店：売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業
- 回答企業数 190企業
- 回答率 67.1%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業他	合計
依頼数	215	20	20	28	283
回答数	140	12	14	24	190